



Harmony

このコーナーでは、病院で取り組んでいる様々な事業を紹介します。

ゲノム医療センターについて

ゲノム医療センターは、令和4年12月に臨床遺伝診療部が改組され、従来の遺伝カウンセリング部門にゲノム解析部門とデータ管理部門を加えた3部門体制で組織されました。前身となる遺伝相談室は、国のモデル事業として平成11年10月に四国で初めての遺伝カウンセリング専門部門として他に先駆けて開設されました。その後も、徳島大学病院は臨床遺伝専門医制度研修施設やNIPTコンソーシアム認定施設（現NIPT新制度基幹施設）、未診断疾患イニシアティブ（IRUD）拠点病院、日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構（JOHBOC）連携施設といった多くのゲノム関連制度の認定施設に指定され、その中でゲノム医療センターはがん診療連携センターや各診療科などと協力しながら高度な専門性を有するゲノム医療を提供しています。

保険収載されている遺伝学的検査も大幅に増加しており、それに伴って遺伝カウンセリングの件数も年々増加し、昨年度は466件に上りました。遺伝カウンセリングの内容も、従来の単一遺伝子疾患の診断目的だけでなく、多因子遺伝疾患や倫理的問題が絡むような周産期の遺伝カウンセリングなどが少しずつ増えてきています。ゲノム技術の発展に伴って大量のゲノム情報が蓄積されるようになり、これまでは遺伝との関連が少なかった領域でもゲノム情報が活用されるようになってきました。糖尿病や高血圧症、虚血性心疾患、脳血管障害などのありふれた病気でも遺伝的要因が少しずつ明らかにされており、将来的には遺伝的要因による発症予測や体質にあった薬剤の選択、生活習慣改善のアドバイスなどが可能になっていくことが期待されます。

より専門的でより多様なニーズに応えるために、しっかりした遺伝学的知識を身に着けた遺伝専門職の育成とともに、保険ではカバーしきれないゲノム情報を提供するゲノム解析機能の拡充にも努めていかなければなりません。これからのゲノム医療を支えるために、人材の確保や新たな機器の導入などを進めていきたいと考えています。

ゲノム医療センター センター長 森野 豊之



ゲノム医療センターミーティングの様子

脇元病院長補佐(事務担当)に、趣味や特技について寄稿いただきました。

昨年の4月から病院事務部長及び事務担当の病院長補佐を拝命しております脇元直彦です。少し自己紹介をさせていただきますと、出身は宮崎県で、これまで秋田大学、大阪大学と転勤を重ねてまいりました。赴任先では、休日に観光や名物の探索などを楽しまれていますが、家族や友人が赴任地を訪ねてくることがあり、自分がガイドとなって案内するのも楽しみのひとつです。どこを案内すれば喜ばれるのか、事前に視察してスケジュールを考えたり、名物やおいしい食べ物をどのお店で食べるか、などと考えていると、自分が赴任地を知るいい機会にもなります。

先日も熊本から妻が義理の両親を連れて徳島を訪ねてきました。両親にとっては初めての四国、初めての徳島ということで、案内する側も気合が入ります。どこに行きたいか聞いてみると、鳴門の渦潮がみたい、眉山に行きたい、阿波踊りが見たい、とガイドブックで予習をしているらしく、矢継ぎ早にリクエストがありました。



家族で徳島を堪能しています！

2泊3日と短い旅でしたが、徳島を満喫できたようで、「大鳴門橋や阿波踊りがしばらく夢に出てきそうだ。」と徳島の光景が頭から離れないようでした。

食べ物も、徳島ラーメン、鳴門鯛、阿波尾鶏を堪能し、お土産に鳴門金時のお菓子などを買って帰りました。徳島大学病院も見、「病院がきれい」と話していました。両親は旅行先が気に入るとまた来たいと言うほうですが、今回の徳島も気に入ってくれたみたいで、また来たい、と話していました。機会があれば、大歩危・小歩危や祖谷も案内してみたいと思います。このように、家族や友人が徳島に来たら案内しようと考えていますが、ここがいいよ、など有益な情報がございましたら、教えていただけるとありがたいです。

病院長補佐(事務担当) 脇元 直彦



脳神経内科
特任助教 松原 知康

令和5年4月より脳神経内科特任助教に赴任しました松原知康と申します。このたび初めて徳島の地に参りました。徳島の過ごしやすい気候、優しい人々に囲まれとても働きやすく感じています。私はこれまで神経病理を専攻してきました。これからは神経病理の研鑽を継続しつつ、脳神経内科診療に広くかかわっていかれたらと思っています。

趣味はスポーツ観戦(特に野球、サッカー)です。インディゴソックス、ヴォルティス、FC徳島の試合もスタジアムに足を運んで観戦してみたいと考えています。

そのためにも、まずは日々の仕事に早く慣れ、貢献できますように精進いたします。至らぬ点が多々あると存じますが、何卒ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

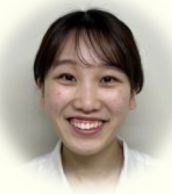


放射線診断科
医員 岡田 直子

令和5年4月より徳島大学病院放射線科に赴任致しました、岡田直子と申します。令和3年4月に徳島大学病院放射線科に入局後、1年間徳島県立中央病院に赴任し、1年ぶりに徳島大学病院に戻って参りました。上級医だけでなく、コメディカルの皆様からも温かく接して頂き、大変感謝しております。

趣味はサブスクリプションにおけるサッカーや野球などのスポーツ観戦、旅行です。オンオフがはっきりしている科ですので、休日はリフレッシュしてゆっくり休むようにしています。

現在は放射線科専攻医としてCTやMRI、核医学検査の読影、放射線治療、IVRの手技に関して日々研鑽を積ませて頂いております。まだまだ未熟ではありますが、立派な放射線科医になれるように努力していきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



かみあわせ補綴科
修練歯科医 青木 映璃

令和5年4月よりかみあわせ補綴科に入局いたしました、青木映璃と申します。令和4年に徳島大学卒業後、徳島大学病院にて研修医を修了し、現在に至ります。

かみあわせ補綴科は、歯質や歯の欠損をかぶせものや入れ歯などで補い、人間生活の基本である「食べる機能」を回復することで、患者様の口腔の健康維持に携わっています。当科ではその他にも、顎関節症や金属アレルギーなど多岐に渡って取り組んでおり、多くのことを学ばせていただいている毎日です。

自分の未熟さを痛感し落ち込むことも多々ありますが、信頼できる先生方、気さくな先輩方に恵まれ、充実した楽しい日々を送っています。

歯科医師として少しでも成長できるよう努めて参りますので、今後ともよろしくお願い致します。



東病棟3階 NICU
看護師 鶴羽 綾香

令和5年に4月に入職し、東病棟3階周産母子センターNICUに配属となりました、鶴羽綾香と申します。当病棟では、主に早産児や低出生体重児、先天性の疾患のある赤ちゃんが入院されており、24時間体制で高度な治療と看護を提供しております。看護師として、小さな命を預かる責任感やプレッシャーを日々感じておりますが、新しい家族が生まれ育っていく、かけがえのない時間に立ち会わせて頂けることや先輩方の熱心なご指導が励みとなり、1日1日を大切に過ごすことができております。

趣味は、カフェ巡りやスポーツ観戦なので、休日は美味しいものを食べたり、徳島ヴォルティスなどのJリーグの試合観戦に行ったりしてリフレッシュしています。

まだまだ未熟ではありますが、赤ちゃんとそのご家族に寄り添ったあたたかい看護の提供に努めて参りますので、今後ともよろしくお願い致します。



栄養部
管理栄養士 藤本紗織

令和5年4月に入職いたしました、藤本紗織と申します。昨年度まで徳島大学大学院にて基礎研究を行っており、博士前期課程を修了いたしました。私は幼い頃より食べることが好きで、食事で患者さんの健康を支えたいと考え、病院栄養士の道を選びました。現在栄養部では、栄養指導といった業務のほか、病棟担当栄養士として入院患者さんの栄養管理を行っています。食欲不振で食事が思うように食べられない方や、疾患の影響で食事制限がある方に対して食事調整をするほか、栄養状態が良好に保てるよう食事内容の変更の提案などを行っています。食事内容にお困りの方がいらっしゃいましたら、お気軽に栄養部までご連絡ください。患者さんのお役に立てよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係 (bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp) までお寄せください。また「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。

